

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	地元企業及び店舗との産学連携によるプロの販売員育成プログラムの開発		
法人名	学校法人武田学園		
学校名	専門学校ビーマックス		
代表者	理事長 武田 結 幸	担当者 連絡先	木代健介 TEL(086)252-1071
<p>1. 事業の概要</p> <p>専修学校での学習と企業・店舗での実務を併用して、販売・接客業に求められるビジネススキル及び専門スキルが系統的かつ段階的にスキルアップできる、日本版デュアルシステムを活用した人材育成プログラムを研究・開発する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●百貨店、専門店等において採用に関する実態調査を行うことにより、採用時に求めるスキル、就業までに身につけておくべきビジネスマナー・ビジネス常識、新卒者に不足している点・不満を感じる点、採用後に発生する問題を把握することができた。 ●百貨店・専門店等の販売員の特性調査を行うことにより、それぞれの特性を科学的に把握することができた。 ●専門学校生が企業実習に参加し、座学と企業実習を並行して行うデュアルシステムを活用したプログラムを開発することができた。 ●一連のプログラムの検証を通じて、新たなデュアルシステムを活用したプログラムの開発、実施の参考となった。 <p>②事業により得られた成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●座学と実習を反復して行う、デュアルシステムを活用したプログラムを開発した。 ●企業実習に参加する前に事前講座を設け、実習の目的、サービス接遇の基本、就業中のマナーなどについても理解させた。 ●企業実習を通して自分がどう成長したいのか等の目標を各自に設定させた。 ●企業実習が終了した段階でフォローアップ講座を行った。これは、販売に関する専門的な知識を付与するとともに、各々の実習先でどのような点を指摘されたり、指導を受けたのか、同じ失敗を繰り返さないためにもどのような工夫・改善をしているのか、学生同士で共有することを目的に行った。 ●企業実習を通して自分自身に何が足りないと感じたのか、また、学生と社会人の違いは何か等についてもディスカッションを行い、学生の学び、気づきをさらに深いものにした。 			

③今後の活用

実習に参加した学生が実際の販売の仕事を経験を通して知り、自分に足りないこと仕事をするうえで必要なことを理解したうえで学校で勉強したこと又その逆は、学生にとっても専門学校においても有意義であった。次年度以降においても、本事業で開発されたプログラムを学生に提供し、学生の就業意識・意欲の喚起を継続したい。

④次年度以降における課題・展開

事前講座やフォローアップ講座を実施頂いた担当、及び実習にご協力頂いた企業様からも建設的なご意見を数多く頂き、次年度以降のプログラム開発に役立てていきたい。

さらに、学生の気質や性格も考慮し、各学生の特性にあった実習プログラムの開発も各企業様と連携しながら開発したい。

また、本プログラムを経験し就職した学生の追跡調査も行い、結果をプログラムにフィードバックしていきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

①企業が採用時に求めるスキル調査の実施

百貨店や専門店等の採用に関する実態調査をアンケート方式で行い、有効回答数134社を得た。その結果、採用時には専門的知識よりもコミュニケーション能力や協調性などの「人との関係を作る能力」、責任感や行動力などの「自分をコントロールする能力」を重視していることがうかがえた。

②販売員の特性調査の実施

販売員の特性を調査する為に678名の特性調査を行った。

●販売職に向くと思われる情熱家タイプや生真面目タイプが、設計や製造職と比べて多いことが確認できた。ただし、慎重家が多い点が意外な点であった。

●TCIの性格タイプでは、「成熟した」および「組織的」の2タイプが成熟と位置づけられる。販売職の成熟度合いは52%で、設計・製造職の45%と比べて高いことが確認できた。

②カリキュラムの開発

●テーマ:デュアルシステムを活用したプログラム

●開発経緯:実態調査の結果から、企業が採用時に求めるスキルとして専門的知識よりも、「人との関係を作る能力」や「自分をコントロールする能力」をあげている。学生が企業での実習に参加することにより、人との関わり方、仕事に臨む際に必要な姿勢を経験から学ぶことができるのではないかと。その結果学生の意識が企業の求めるレベルに近づき、採用時のミスマッチや早期離職を防げるのではないかと。という仮説を立て、当該プログラムの開発を行うこととした。

●対象:専門学校生

●方法:企業実習に参加するための事前講座を行い、実際に企業実習に参加する。さらにフォローアップ講座を行い実習中に指導を受けた課題への対応策を考え、さらに企業実習に参加して実行することでレベルアップを図る。

●開発内容:座学と実習を反復して行う日本版デュアルシステムを活用したプログラムを開発。

③実証講座

テーマ:デュアルシステムを活用したプログラムの実施

期 間:平成20年6月～平成21年1月

- 事前講座⇒90時間
- 企業実習⇒300時間
- フォローアップ講座⇒135時間
- 企業実習⇒330時間

受講者の属性:専門学校1年生

受講者数:男子1名、女子6名

場 所:座学⇒学内、実習⇒5社5事業所

学生の反応:

卒業後に携わりたい職種に実習で参加し、仕事の実情、自分に足りないスキルを経験を通して学ぶことができた。失敗をすることで自分自身を振り返り、同じ失敗を繰り返さないために工夫や改善を行うなど、仕事に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。

④その他

学生が社会や企業をより深く知る為には、短期の実習だけでは足りない。

本プログラムは単に企業実習に参加し、就業の一部を経験するだけでなく、長期にわたり就業しその勤務態度に対して毎月評価を受けることで点ではなく線で能力評価ができるように工夫を行った。これにより、学生は自分の成長の軌跡と足りない点を明確にすることができた。